

ニューフェイスコーナー

新規開業のご挨拶

下関市医師会 いな内科・糖尿病クリニック

伊奈 雄二郎

2022年10月に下関市伊倉新町に開業した「いな内科・糖尿病クリニック」の伊奈雄二郎です。

私は生まれも育ちも下関市で、ごくごく一般的な家庭で生活しておりました。しかし、小学5年生の夏、急激な口渴感や多飲・多尿、体重減少を自覚し、病院を受診したところ、1型糖尿病と診断されました。それ以来、30年以上にわたり、家族、主治医の先生、友人など周囲の支えに恵まれながら、インスリン自己注射を1日も欠かさず行ってきました。幸いにも合併症もなく、現在も健康な生活を送っています。この経験から、糖尿病患者さんのサポートをしたいという思いが芽生え、医師の道を選びました。

鳥取大学で学び、2004年に卒業しましたが、その後の進路について悩みました。周囲からは、私自身が糖尿病患者であることから、糖尿病専門医としての道が自然だろうと期待されていました。私も最初はその通りだと考えていました。しかし、当時私は循環器のカテーテル治療に大きな興味を抱いており、後悔しないためにもカテーテル治療の勉強が必要だと感じていました。ちょうど私が卒業した年に、現在の医師臨床研修制度が始まりましたが、研修修了後は医局に所属するのが一般的でした。しかし、糖尿病と循環器の両方を学べる医局は限られており、そのため、循環器専門医を目指し、その後機会があれば糖尿病の勉強をしようを決断し、小倉記念病院で後期研修医として働き始めました。この病院は心臓カテーテ



ル治療のメッカであり、心筋梗塞や不整脈の患者に日常的に対応し、研鑽を積みました。その後、上司の紹介で地元の下関市立市民病院の循環器科医として勤務し、循環器専門医の資格を取得しました。

ひとまず循環器専門医は取得したものの、糖尿病専門医の資格を取得する計画は未定でした。日々の業務に追われ、糖尿病専門医としての道は遠ざかりつつありました。しかし、糖尿病専門医不在であった市民病院では、糖尿病患者の血糖管理を内科医として頻繁に担当するようになり、さらに病院から糖尿病外来を任されるようになると、やはり専門的な知識の必要性を感じるようになりました。このため、九州大学第3内科に相談し、福岡での研修の許可をいただき、2015年から済生会福岡総合病院で専門医研修を履修し、専門医の資格を取得しました。その後、お礼奉公として数年間福岡で働きました。

かねてより、下関には糖尿病専門医が不足していると感じており、また自分を育ててくれた下関に恩返しをしたいという思いから、医局と交渉の末、2021年4月に下関市立市民病院に戻り、2022年10月に「いな内科・糖尿病クリニック」を開業しました。

開業後は患者からのニーズとして、入院せずに糖尿病の治療を受けたいという声が多いことを実感しました。当然、必要な場合には入院を勧めますが、開業医として入院を希望しない患者にも対応する責任があると思い、可能な限り対応しております。私自身が1型糖尿病患者であることも公表しており、親近感を感じて訪れる患者も多く、その期待に応える医療を提供することも、私にとっての責務であると感じております。また、循環器と糖尿病の専門医であることも、併存疾患の多い患者さんに対応できる特徴かと思えます。

これまで福岡や北九州に勤務していた期間が長かったため、山口県内の諸先輩方には馴染みが少なく、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

